

大型連休中に感じた

旭の魅力

市長 米本 弥一郎



4月末から5月初めにかけての大型連休、新型コロナウイルスの感染が落ち着きをみせ、行動自粛やマスク着用も緩和されたことで、旅行やレジャーで外出した人も多かったのではないかと思います。

この連休中、市内でもさまざまなイベントが開催され、県内外から大勢の人に訪れていただきました。

5月3日の「幽学の里で米作り交流事業」では、都内などから参加した親子連れによる田植え体験が行われました。水が張られた田んぼに、初めは恐る恐る足を踏み入れている子どもたちが、あっという間に慣れ、泥にまみれたり、生き物を見つけたりすることに興じながら、苗を植えている様子をほほ笑ましく見守りました。

同じ日に長熊釣堀センターで行われた「春のヘラブナ釣大会」では、

老若男女の釣り人が早朝から腕前を競い合いました。約100人の参加者のうち、その大多数が市外からの参加という人気ぶりです。表彰式では、釣果が発表されるたびに会場が沸き、賞品として市の特産品である肉や野菜などを受け取った入賞者のうれしそうな顔がとても印象に残りました。

この日は好天に恵まれ、ウグイスの澄んだ鳴き声が聞こえるなど、自然の豊かさを再認識した日でもありました。旭市には、この豊かな自然をはじめ、特産品や交流施設など多くの恵まれた地域資源があります。現在、シティブロモーションの一环として、映画やドラマなどのロケを誘致するためのPR動画を制作中ですが、より多くの人に訪れていただけるよう、旭の魅力を全国に向けて発信していきたいと思っています。